

(特非) パルシック

パレスチナ西岸地区ジャマインにおける 廃棄物の再利用を通じた 地域循環型農業モデル形成事業

ひろげる助成

3年目

実践

生ゴミ堆肥づくりに
参加した世帯

73世帯

環境クラブとの
ワークショップ

45回

今年度計画の達成度

81%

目標達成度

90%



4校共同での生ゴミ有機堆肥作り

課題

占領下で物流が不安定かつ空地へのゴミの集積が深刻な当地において、生ゴミを用いた有機堆肥による作物栽培を通して、ゴミ減量と環境意識醸成、循環型社会形成を目指す。

目標

パレスチナ西岸地域で廃棄物の再利用を含む地域循環型農業のモデルが形成される。

活動内容と成果

●中等学校の生徒66人が環境クラブに継続参加し、家庭での生ゴミ回収や有機堆肥作り、廃棄物処理場への見学を通じ、地域の環境問題について実践的な学びを得た ●堆肥舎にて10tの堆肥を作成、うち2,600ℓを地域内の農家に販売した ●現地の農業専門家を生ゴミによる有機堆肥作りを実践する市町村に派遣し、官民共同によるゴミ処理の仕組みづくりや循環型農業促進に向けた市民の環境活動を学んだ ●環境クラブの66人、農家・住民の73人が生ゴミ堆肥づくりに参加、作成した有機堆肥を用いた野菜・ハーブを栽培した



小川町研修生ゴミから作られるバイオガス



有機堆肥を用いたエンドウ豆の比較栽培実験

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

もともと現地で行われていたフンボカシ肥料の手法に比べ、パルシックが導入している堆肥作りは手間暇がかかるため、作業に携わる農家の参加状況が著しくなかった。

■工夫した点

フンボカシ肥料を使い続けることによる土への負担の説明や、有機堆肥を用いた比較栽培実験を通して、植物由来の生ゴミ堆肥の利点を伝え、モチベーションの維持に繋げた。

全助成期間の活動を振り返って

地域内で大量破棄される生ゴミやオリーブの絞りかすなどを活用した有機堆肥作りや、学生や近隣住民に対する環境教育を通して、地域内に循環型社会の足掛かりを築くことができた。住民の環境意識はまだまだ低い、とりわけ環境クラブの学生など若い世代の環境問題への関心、また改善に向けて解決策を思考する力に、3年間の活動を通して大きな向上がみられた。

| 活動地域 |  パレスチナ自治区

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11

電話 : 03-3253-8990

E-mail : office@parcic.org

http://www.parcic.org



今後の
展望

ジャマイン町においては、地域のゴミ問題という共通課題に向け、生ゴミ有機堆肥作りに取り組む大人世代と、環境クラブで学びを深める若者世代が、今後も環境にやさしい町づくりを目指して活動を継続していけるよう、フォローアップを続けていく。また来年度以降は活動地域を移し、ジャマイン町で得た経験、反省と学びを糧に、パレスチナ西岸全域で遅れているゴミの分別・再利用の問題に着手し、循環型社会モデルの普及を目指す。